

"Performance" Through Chemistry

2025年3月期 第2四半期(中間期) 決算説明資料

三洋化成工業株式会社
代表取締役社長 樋口 章憲

コード：4471



<注意事項>

この資料に記載している金額は表示単位未満を切り捨てで、その他、比率等は表示単位未満を四捨五入しております。

<免責事項>

この資料には、2024年11月11日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測等が含まれています。世界経済・競合状況・為替の変動・原料価格の動向等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予測と大幅に異なる可能性があります。

<IRに関するお問い合わせ>

三洋化成工業株式会社
経営企画本部 コーポレート・ガバナンス部
E-mail : pr-group@sanyo-chemical.group

創 立：1949（昭和24）年11月1日

本 社：京都市東山区

資 本 金：13,051百万円

国内支社・営業所：東京、名古屋、広島、福岡

国内工場：名古屋、衣浦、鹿島、京都、川崎（サンケミカル）

従業員数：1,880名（連結）[2024年9月30日現在]

事業内容：約3,000種のパフォーマンス・ケミカルス（機能化学品）の製造・販売

2025年3月期第2四半期(中間期)業績



(億円, %)

連結	'24年3月期 第2四半期	'25年3月期 第2四半期	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	792.7	770.3	▲22.4	▲2.8
営業利益	20.2	44.5	24.3	120.5
経常利益	49.4	49.9	0.4	0.9
親会社株主に帰属する 中間期純利益	43.9	9.4*	▲34.5	▲78.6
包括利益	66.1	▲5.4	▲71.6	-

* 構造改革費用等として約25億円の特別損失を計上

業績予想の修正（9/27）について

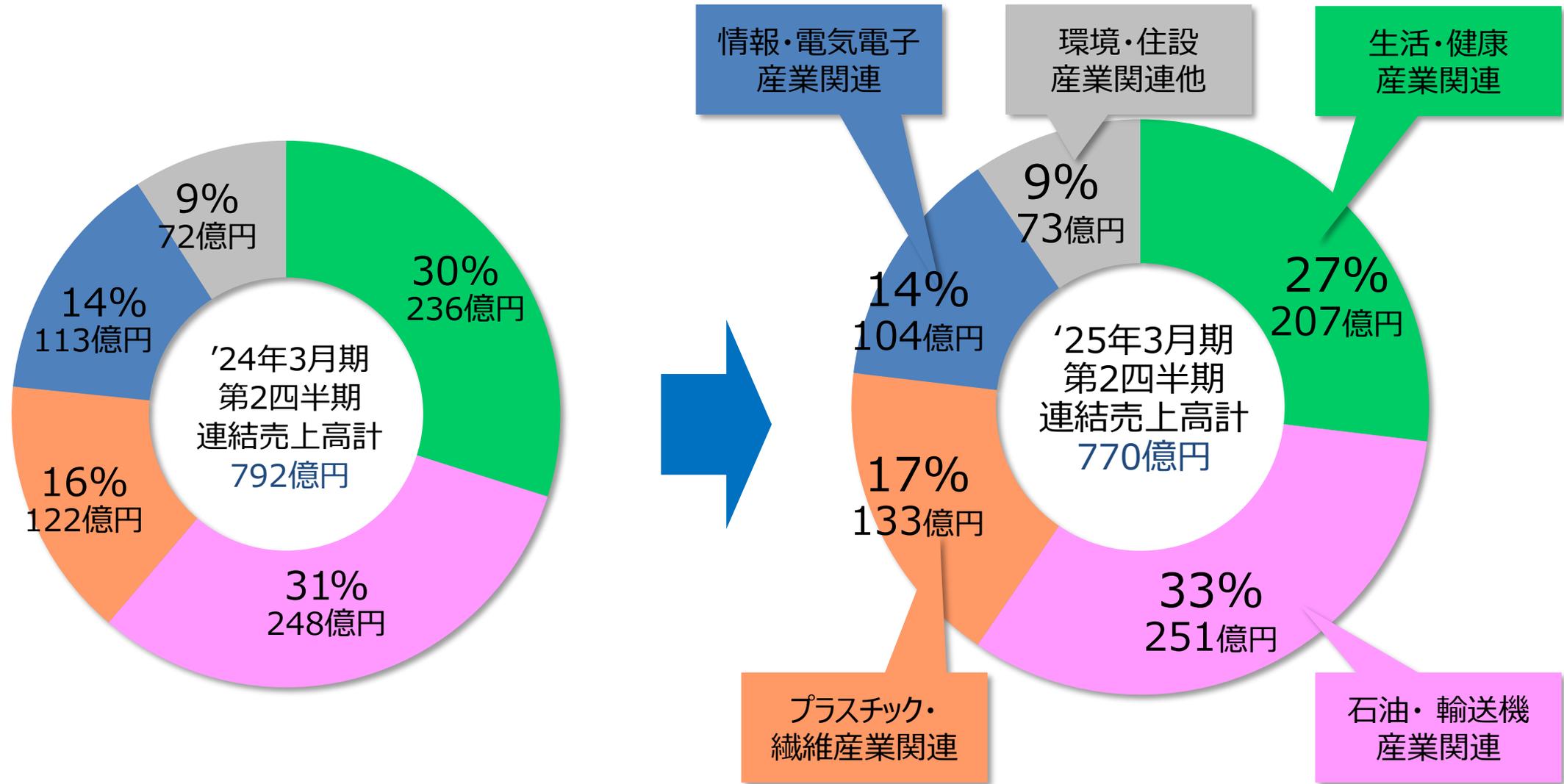
以下の理由で第2四半期及び通期の予想を上方修正いたしました。

- ・自動車不正の問題等の影響で自動車業界は不調なもの、当社では自動車関連産業が復調傾向
- ・通期での特別損失が想定を10億円程度下回る

(億円)

連結	期初予想(通期)	修正予想 (通期)	増減
売上高	1450	1450	0
営業利益	80	90	10
経常利益	95	100	5
親会社株主に帰属する 当期純利益	25	40	15
1株当たり 当期純利益	113円20銭	181円11銭	

連結産業分野別売上高構成

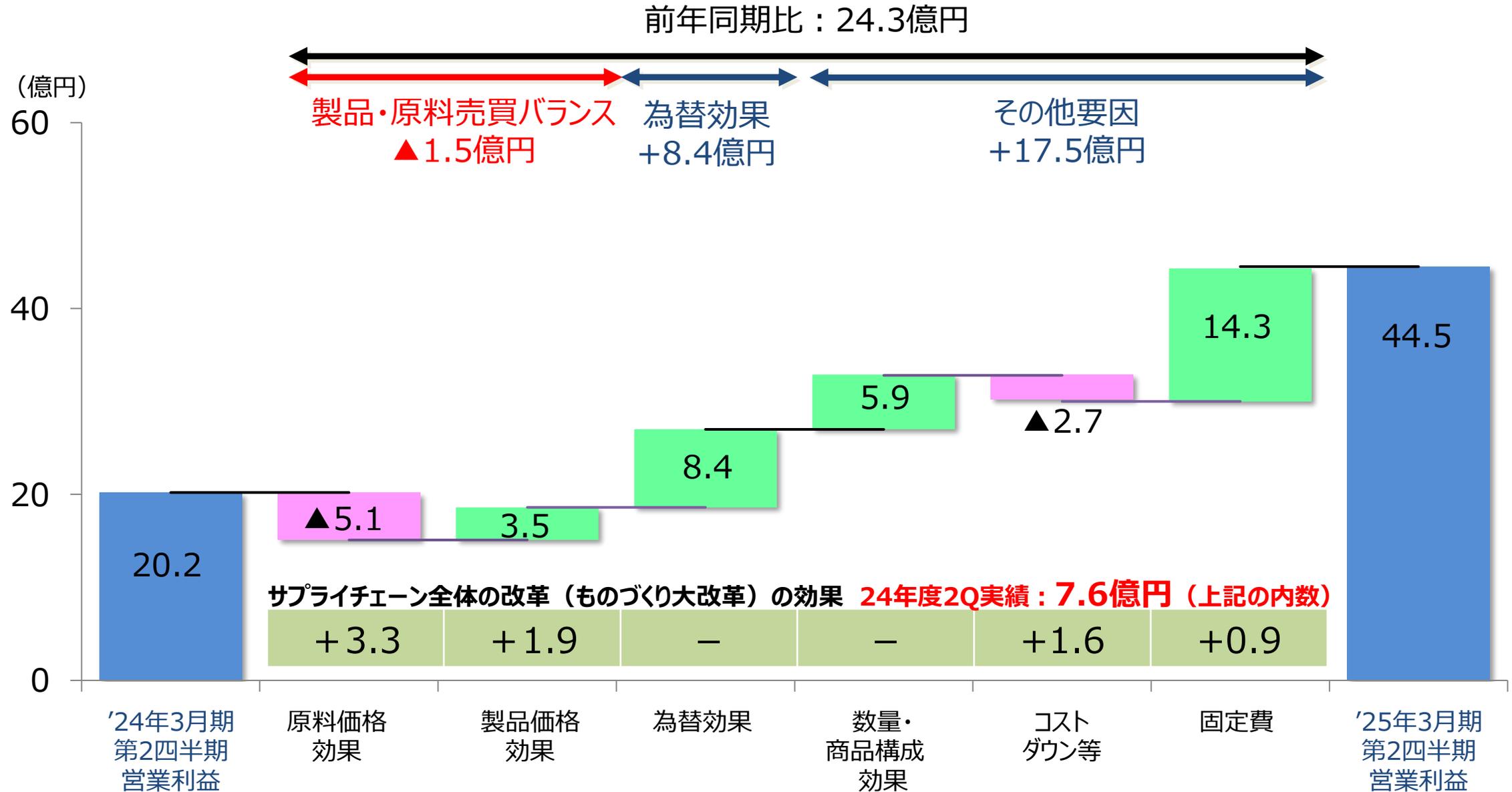


連結産業分野別業績

(億円)

産業分野	売上高			営業利益		
	'24年3月期 第2四半期	'25年3月期 第2四半期	増減額	'24年3月期 第2四半期	'25年3月期 第2四半期	増減額
生活・健康産業関連	236.8	207.2	▲29.5	▲9.7	2.5	12.2
生活産業関連	63.7	70.4	6.6			
健康産業関連	173.0	136.8	▲36.2			
石油・輸送機産業関連	248.1	251.1	2.9	10.7	21.1	10.3
プラスチック・繊維産業関連	122.2	133.8	11.6	11.3	14.2	2.8
プラスチック産業関連	84.9	95.8	10.8			
繊維産業関連	37.2	37.9	0.7			
情報・電気電子産業関連	113.3	104.8	▲8.5	11.0	12.0	1.0
情報産業関連	70.5	54.1	▲16.4			
電気電子産業関連	42.8	50.6	7.8			
環境・住設産業関連他	72.1	73.1	1.0	3.3	▲0.0	▲3.4
新規事業に係る研究開発費				▲6.6	▲5.4	1.1
合計	792.7	770.3	▲22.4	20.2	44.5	24.3

連結営業利益の前年同期比増減要因



連結純利益の前年同期比増減要因

(億円)

	'24年3月期 第2四半期	'25年3月期 第2四半期	増減額
営業利益	20.2	44.5	24.3
持分法投資損益	▲1.1	4.6	5.7
為替差損益	23.2	▲4.4	▲27.7
その他営業外損益	7.1	5.1	▲1.9
経常利益	49.4	49.9	0.4
投資有価証券売却益・評価損	20.3	▲0.0	▲20.2
減損損失	—	▲3.0	▲3.0
固定資産除却損	▲4.2	▲3.0	1.1
構造改革費用	—	▲21.5	▲21.5
税金等調整前中間純利益	65.5	22.1	▲43.3
法人税等	▲19.1	▲9.2	9.9
非支配株主に帰属する中間純利益	▲2.3	▲3.5	▲1.1
親会社株主に帰属する中間純利益	43.9	9.4	▲34.5

連結貸借対照表

(億円)

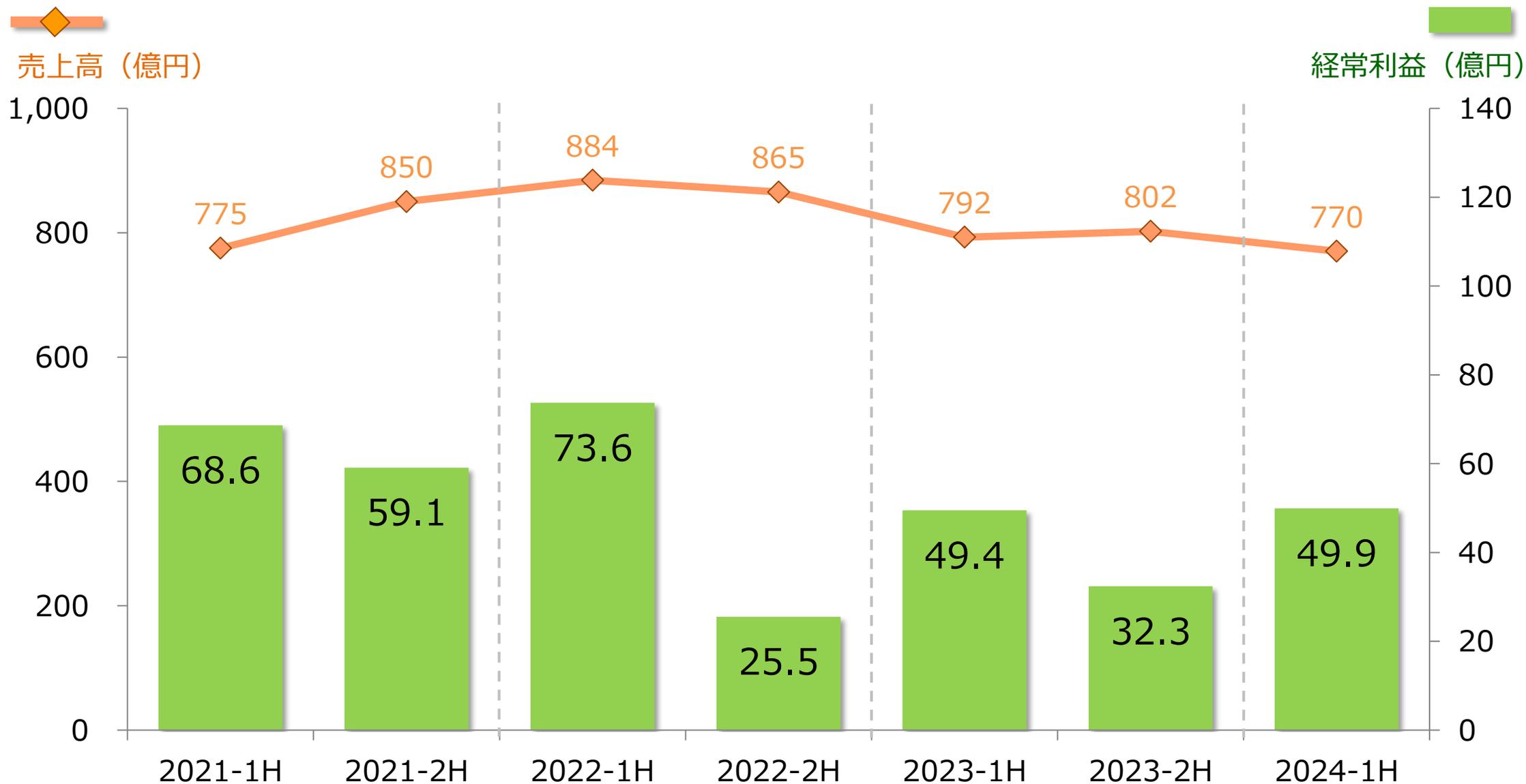
	2024年 3月31日	2024年 9月30日	増減額	主な増減要因
流動資産	1,059	926	▲132	現金及び預金 (▲54)、受取手形及び売掛金・電子記録債権 (▲65)、商品及び製品 (▲9)
固定資産	998	944	▲54	有形固定資産 (▲34)
資産合計	2,058	1,871	▲187	
流動負債	535	383	▲151	買掛金・電子記録債務 (▲53)、短期借入金 (▲43)、未払金 (▲49)
固定負債	107	96	▲10	事業構造改革引当金 (▲12)
負債合計	642	479	▲162	
株主資本	1,201	1,193	▲7	中間純利益 (9)、配当金支払 (▲18)
その他 包括利益	189	170	▲18	為替換算調整勘定 (▲17)
非支配株主持分	25	27	2	
純資産合計	1,415	1,391	▲24	
負債・純資産合計	2,058	1,871	▲187	

連結キャッシュフロー計算書

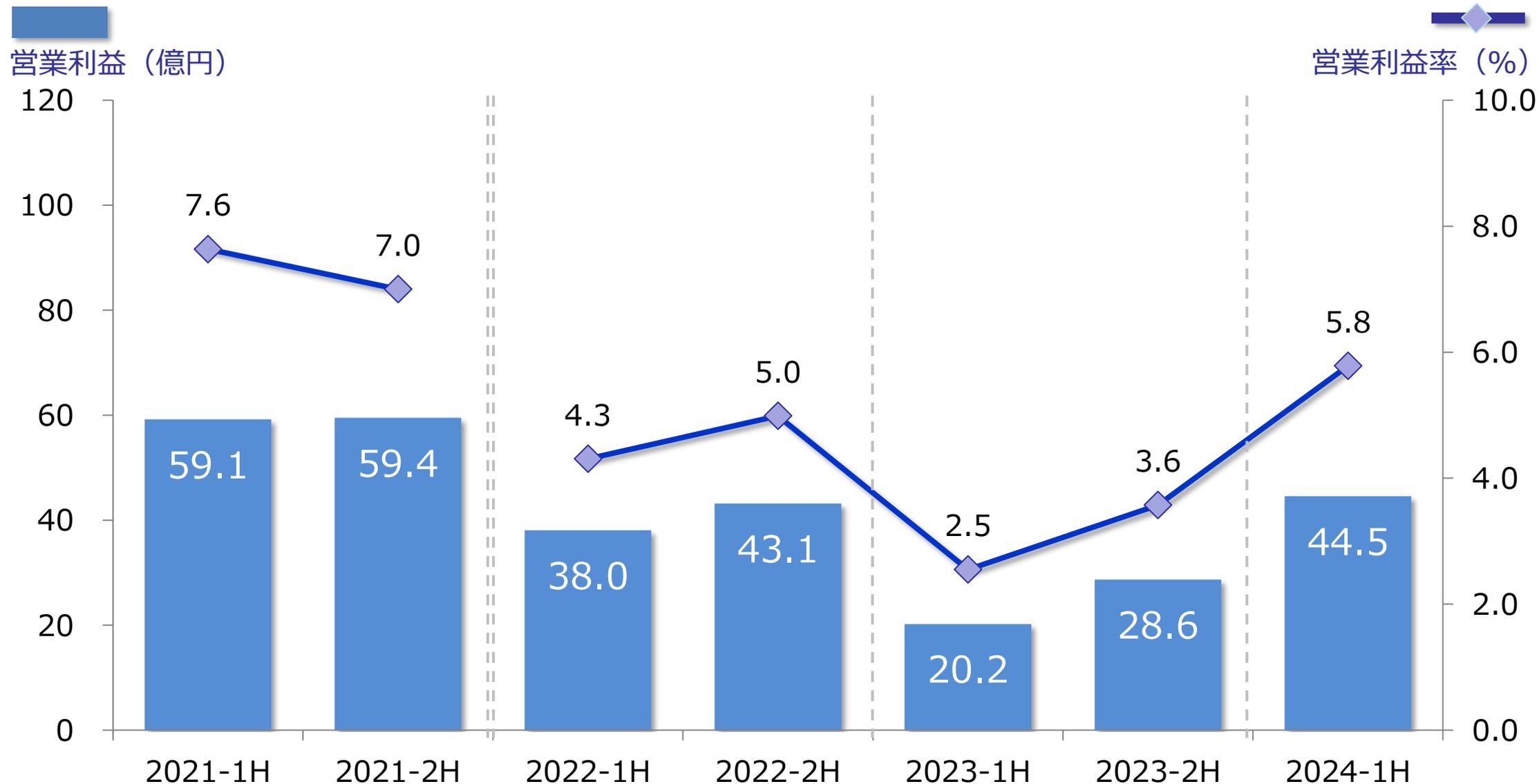
	'24年3月期 第2四半期	'25年3月期 第2四半期	増減額	特記事項
営業活動CF	100.5	49.0	▲51.5	
税金等調整前純利益	65.5	22.1	▲43.3	
減価償却費	54.0	51.1	▲2.8	
持分法投資損益	1.1	▲4.6	▲5.7	
投資有価証券売却益	▲20.3	-	▲20.3	
運転資金の増減	45.3	27.1	▲18.2	
事業構造改革に伴う支払	-	▲36.6	▲36.6	
法人税等	▲12.9	▲12.2	0.7	
その他	▲32.2	2.2	34.4	
投資活動CF	▲32.2	▲34.7	▲2.5	固定資産の取得 '23/1H : ▲36.3、'24/1H : ▲59.1
フリーCF	68.3	14.3	▲54.0	
財務活動CF	▲26.9	▲67.7	▲40.7	借入・返済 '23/1H : ▲5.4、'24/1H : ▲46.0
現金及び現金同等物に係る換算差額	5.6	▲1.1	▲6.8	
現金及び現金同等物の増減額	46.9	▲54.6	▲101.6	
現金及び現金同等物の期首残高	170.4	271.8	101.4	
現金及び現金同等物の期末残高	217.3	217.2	▲0.1	

(億円)

連結業績の推移（半期）



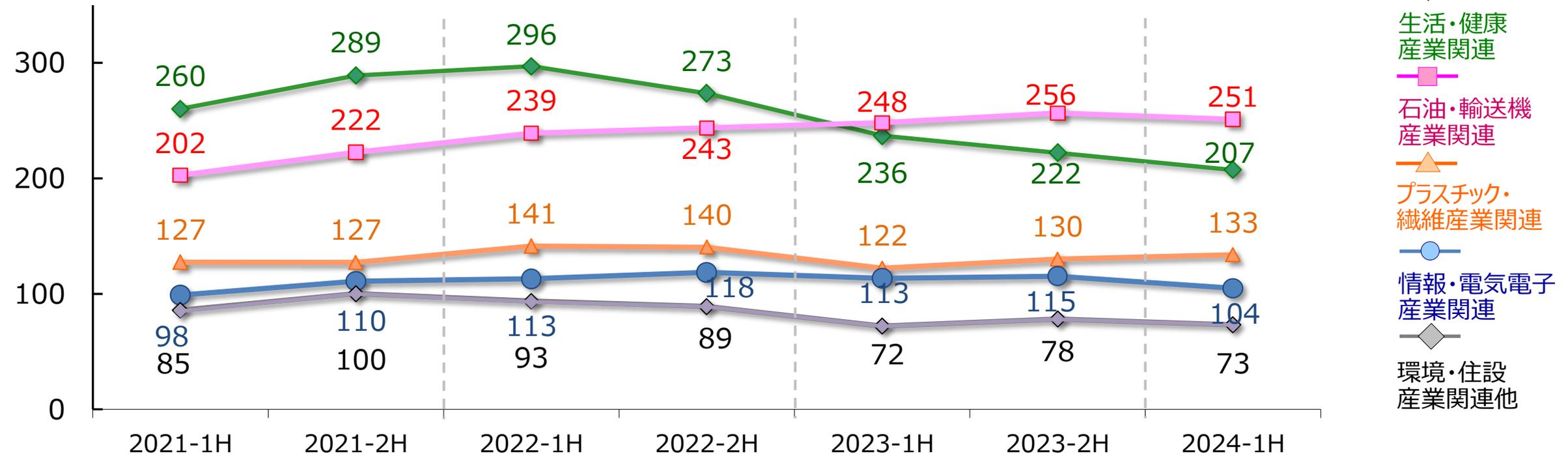
連結営業利益（同率）の推移（半期）



* 一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、2021-2H以前は組み換え前、2022-1H以降は組み換え後の数値を表示しております。

連結産業分野別売上高の推移（半期）

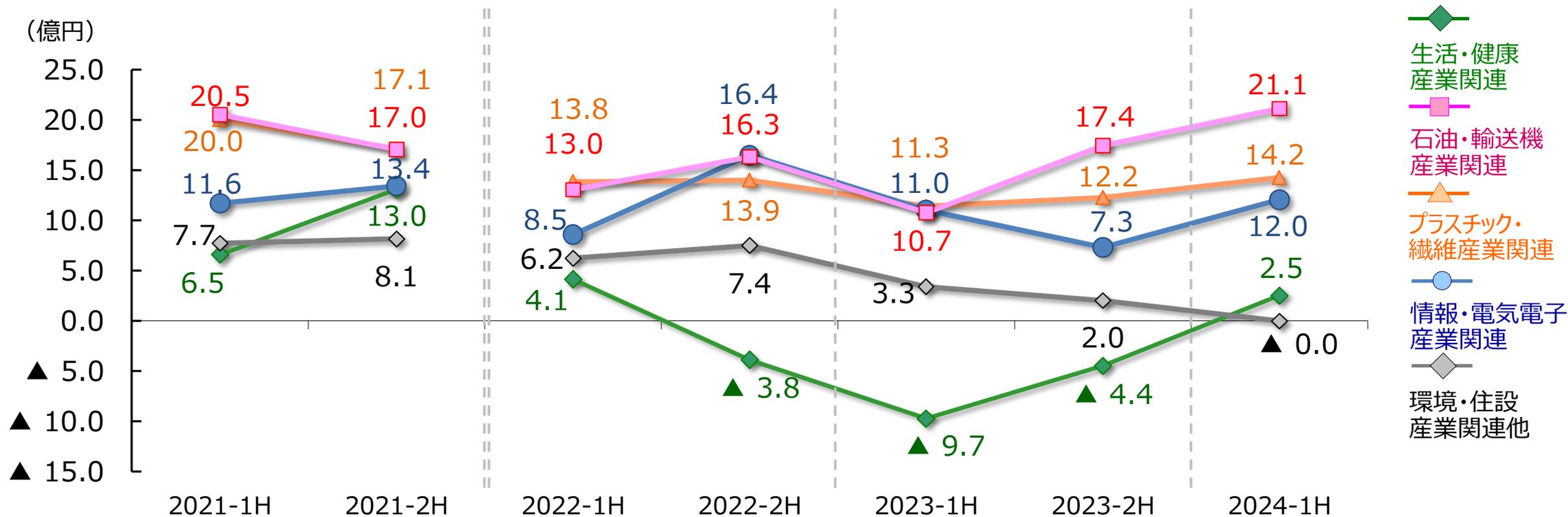
(億円)



当期（上期）業績の主な増減要因（前年同期比）

- 生活・健康 : 【生活】PEGの市況回復で売上高は増加。【健康】はSAP事業撤退に伴い売上高は大幅に減少。
- 石油・輸送機 : 潤滑油添加剤が需要回復により増加したものの、ポリウレタンフォーム用原料が自動車生産回復基調も海外安価品の流入により横ばいで推移し、自動車内装表皮材用ウレタンビーズの海外向けが低調で、売上高は横ばい。
- プラスチック・繊維 : 【プラスチック】永久帯電防止剤が半導体・電子部品需要回復により売上を伸ばし、塗料コーティング剤も好調に推移し売上高は増加
【繊維】タイヤコード糸等の製造時油剤が大幅増加、炭素繊維用薬剤も回復傾向だが、合成皮革が低調に推移し、売上高は横ばい。
- 情報・電気電子 : 【情報】トナーバインダーの需要が回復傾向だが、重合トナー用材料が中国での生産事業からの撤退で低調となり、売上高は大きく減少
【電気電子】アルミ電解コンデンサ用電解液は横ばいだが、半導体市場の回復で関連材料の売上が伸び、売上高は増加
- 環境・住設、他 : 【環境】高分子凝集剤用カチオンモノマーが市況低迷により低調 【住設】セメント薬剤が低調だが建築シーラント用原料が好調で順調に推移

連結産業分野別営業利益の推移（半期）



* 一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、2021-2H以前は組み換え前、2022-1H以降は組み換え後の数値を表示しております。

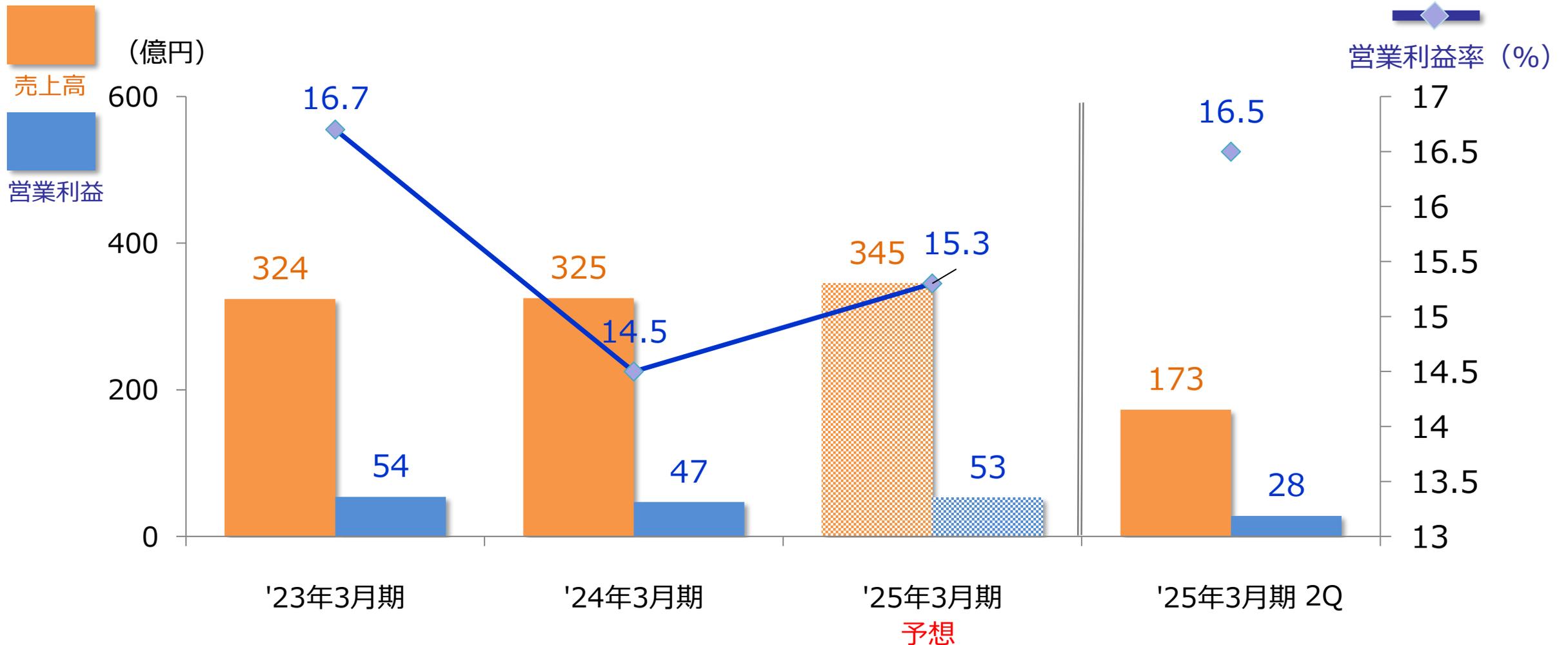
新規事業に係る研究開発費（億円）

'22年3月期		'23年3月期		'24年3月期		'25年3月期
1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H
▲7.3	▲9.3	▲7.7	▲7.2	▲6.6	▲5.8	▲5.4

高付加価値製品群の推移

新中期経営計画2025において、カーボンニュートラルおよびQOL（生活の質）の向上に貢献する注力5製品群を「高付加価値製品群」として位置づけ、さらなる成長加速を目指しています。

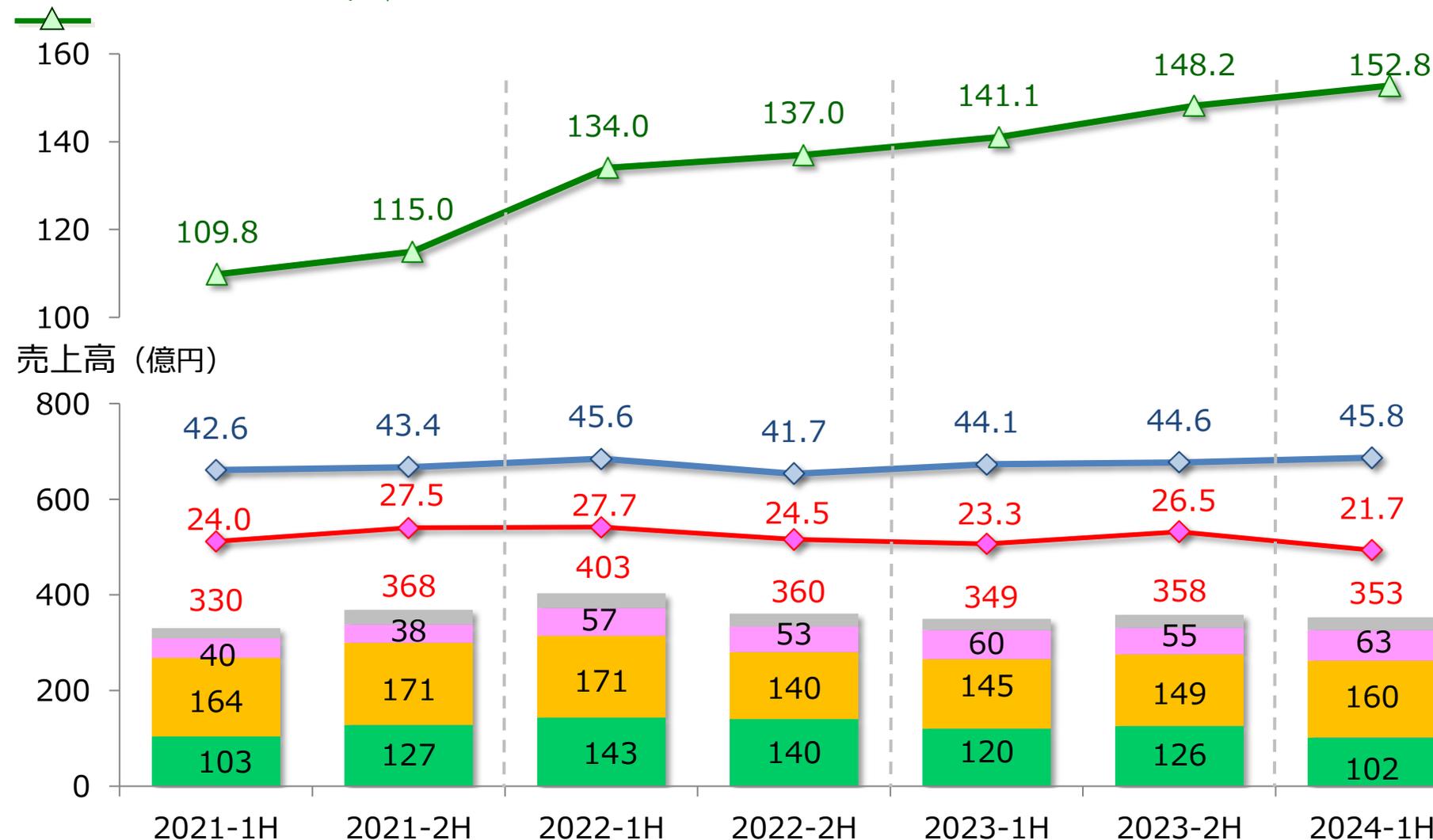
高付加価値製品群：特殊繊維用薬剤、特殊電子部品用薬剤、潤滑油添加剤、永久帯電防止剤、医療・医薬関連



製品群	トピックス
特殊繊維用薬剤	風力発電用風車の需要回復に伴い炭素繊維集束剤が復調。 新設備が2024年10月稼働（当初2025年4月）。現在の生産能力から5割程度の能力増強。
特殊電子部品用薬剤	非車載向けは需要が弱い、車載用は回復傾向であり、横ばい。 自動車の電装化、EVの拡大等コンデンサ需要の急激な増加への対応のため3割程度の能力増強を計画。2026年4月稼働予定。
潤滑油添加剤	自動車関連産業は不調な中、当社では需要拡大に伴い好調。 新規開発品で海外市場の更なる開拓を狙う。
永久帯電防止剤	半導体・電子部品関連の需要回復により好調。
医療・医薬関連	大腸内視鏡検査用用途での需要拡大に伴い上期好調。

海外売上高の推移（半期）

為替（期中平均）（円 / \$）

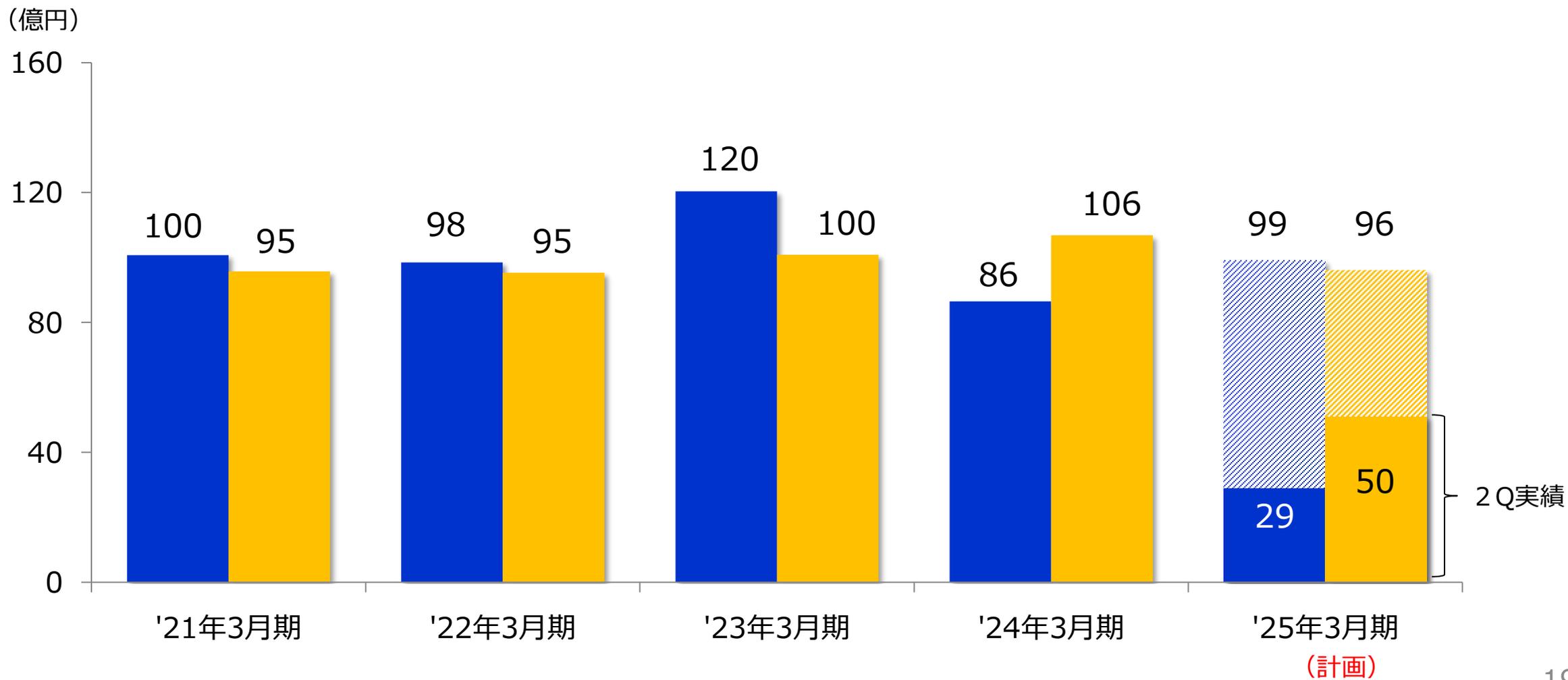


海外売上高比率 (%)

海外生産高比率 (%)



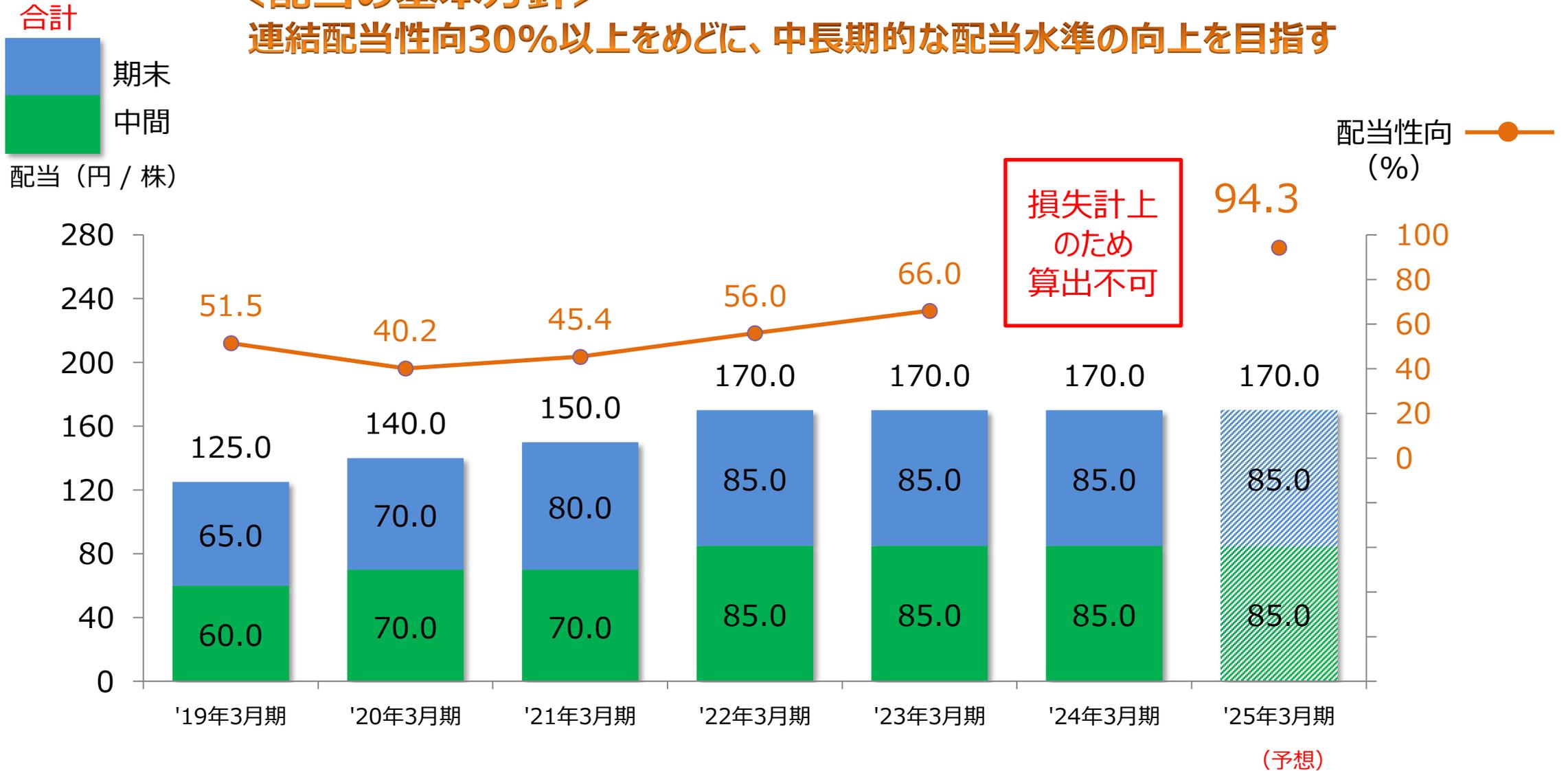
設備投資と減価償却 (連結)



1株あたり配当と配当性向の推移(連結)

<配当の基本方針>

連結配当性向30%以上をめどに、中長期的な配当水準の向上を目指す



TOPICS

潤滑油添加剤「アクルーブ」

◆「アクルーブ」の特長

ギアオイルやエンジンオイルに添加することで以下の効果

☑焼きつき防止

☑低温時に低粘度化する→**省燃費（脱炭素に貢献）**

環境に優しくモビリティイノベーションに貢献する製品

◆「アクルーブ」の強み

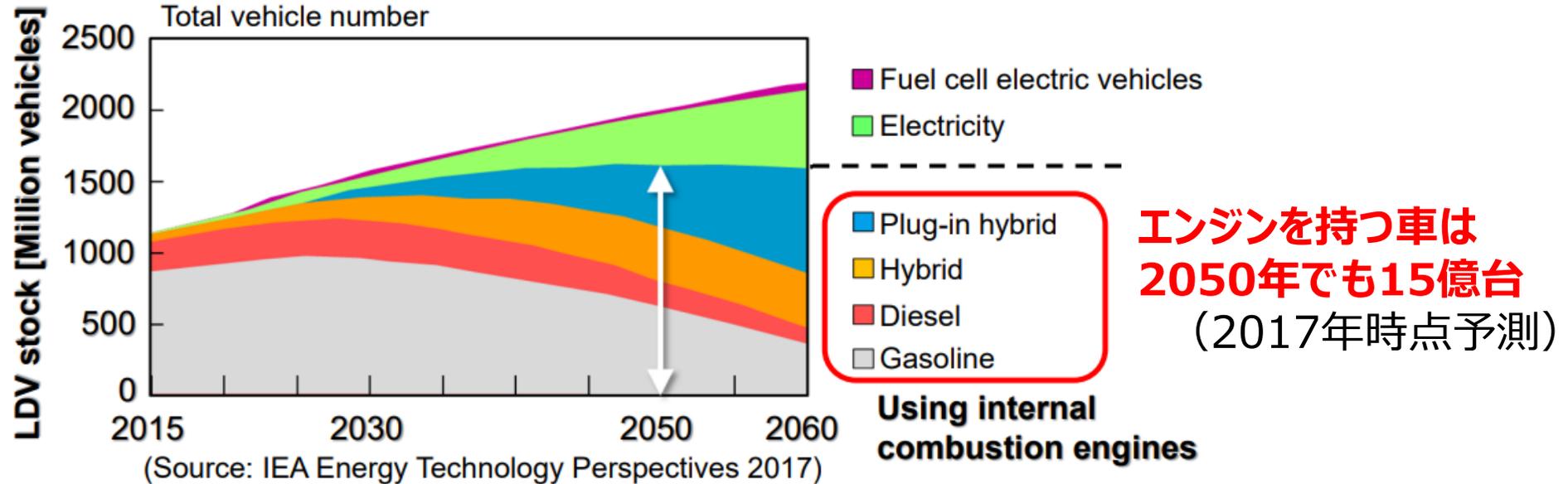
☑開発から60年。高い信頼性と技術の蓄積

☑汎用的なオレフィンコポリマー（OCP）系粘度指数向上剤（VII）と比較し、高機能なポリメタクリレート（PMA）系である



マーケット

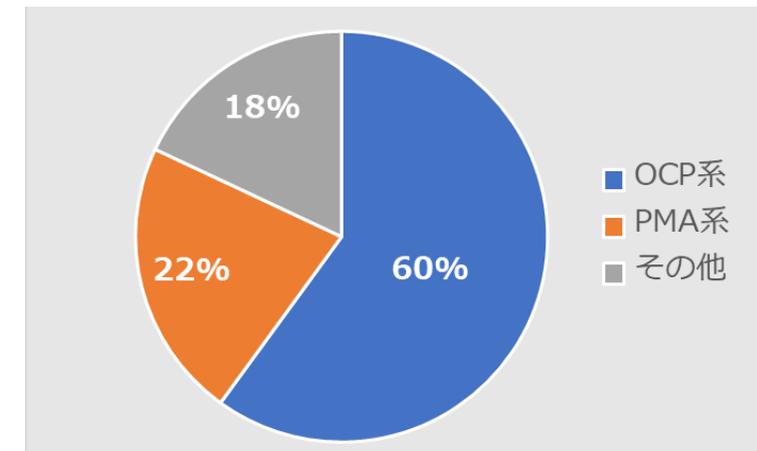
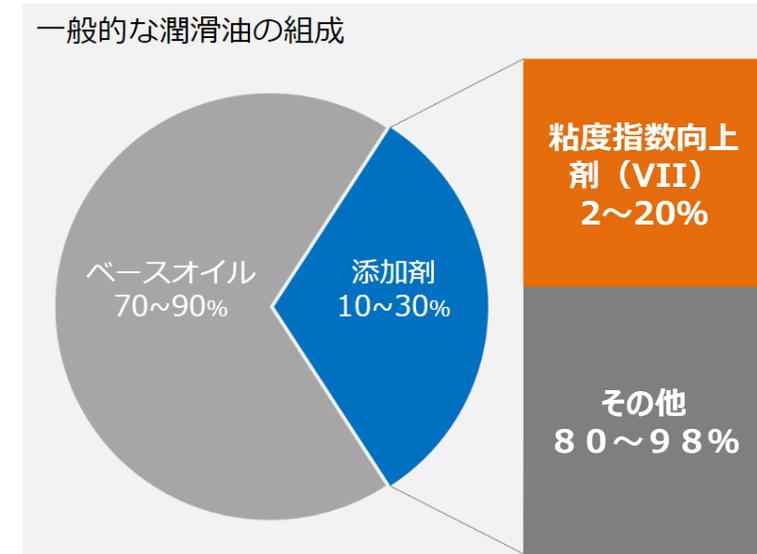
- 2050年でも世界保有自動車の80%はエンジンを持つ自動車
- 純粋なエンジン車は減少するが、ハイブリッド車やプラグインハイブリッド車が増加
→エンジン車に比べアクループの使用量が多いことから、需要増の傾向



- 2023年度国内新車販売台数：477万9086台(22年比14%増)
(一般社団法人日本自動車会議所)

◆市場の規模感

- ・潤滑油の中で「粘度指数向上剤」は約 2 割を占める
- ・高機能なPMA系（アクルーブ）の需要増
- ・2024年度のPMA系粘度指数向上剤の全世界の市場規模予測は約14.2億ドル
(2018 Transparency Market Research, All Rights Reserve)
- ・三洋化成は国内シェア1位、海外でも2番手のシェア



2015年の潤滑油用粘度指数向上剤のタイプ別シェア
(OYR Chemical & Material Research Center, Feb 2017)

PMA系はOCP系と比較して燃費向上に優れているため、市場シェアを拡大している

◆今後の展開

【自動車用途】

ガソリン車：

- ・省燃費に関するエンジンオイルの規格は年々厳しくなっており、新規格対応製品の需要は継続
→新規格*向けに開発したアクループで中国、インド等の自動車生産大国需要を取り込む

- *◆2025年 日本自動車技術会規格 JASO GLV-2
国際潤滑油標準化認証委員会規格 ILSAC GF-7
- ◆2028年 国際潤滑油標準化認証委員会規格 ILSAC GF-8

ディーゼル車：大型車ディーゼルエンジン油用途への展開

EV車(電気自動車)：eアクスル用摩耗防止剤の新規開発中

【自動車用途以外】

- ・航空機用潤滑油用途への展開
- ・船舶用潤滑油用途への展開



新規需要を取り込むとともに、新たな用途開拓で拡販を目指す

機能性タンパク質『シルクエラスチン』 遺伝子組み換え技術により作製された人工たんぱく質。日本初、世界でも数少ない遺伝子組み換えタンパク質を利用した医療機器へ

創傷治癒材用途

- ・日本の糖尿病患者数：300万人以上
⇒重症化（足切断）患者：1万人/年

市場規模
国内90億円
米国900億円

市場性

半月板再生材用途

- ・変形性膝関節症：3,000万人
(有症状者数：1,000万人)

市場規模
国内120億円
米国1,270億円

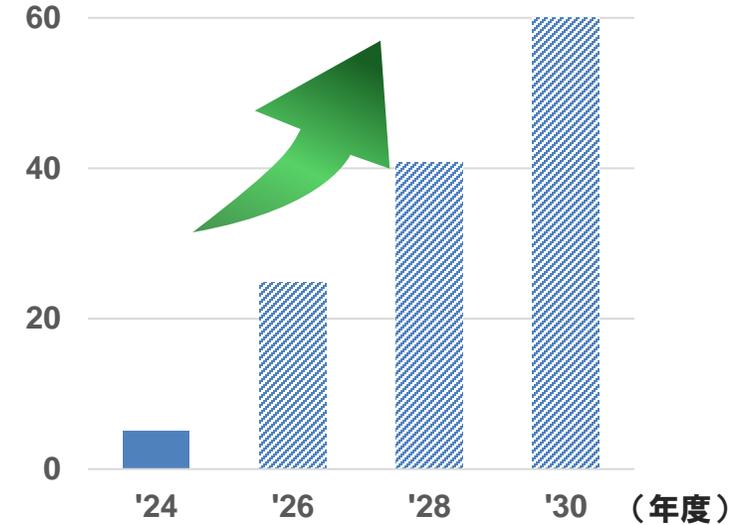
肺リーク塞栓材用途

- ・肺癌摘出術 対象患者：7万人/年

市場規模
国内14億円
米国250億円

(億円)

将来性



用途	非臨床試験	医師主導治験	企業治験	薬事承認取得	保険償還申請
創傷治癒材用途	Progress bar				
半月板再生材用途	Progress bar				
肺リーク塞栓材用途	Progress bar				

**2030年には日米で
60億円の営業利益の
創出を目指す**

創傷治癒材用途

共同研究パートナー：京都大学大学院医学研究科形成外科

慢性創傷（糖尿病性足潰瘍等）や急性創傷（熱傷等）は、日本国内で120,000例以上であり、高齢化に伴い、難治化を含めて増加傾向

従来治療では治癒が期待できなかった傷に対して、高い治癒効果が得られた

	シルクエラスチン	従来法①	従来法②
急性創傷	100%	60%	32%
慢性創傷	90%	34%	-



シルクエラスチン貼付前

シルクエラスチン貼付14日後

科研製薬様と、日本国内における
独占的販売権に関するライセンス契約を締結



10/7に共同記者会見を開催



- ◇ 2025年度創傷治癒用途で実績化を目指し、
手術実績の積み上げ
- ◇ 市場規模の大きい半月板再生材用途での
企業治験を2025年度中に実施
- ◇ 将来的には米国市場もターゲット

**2030年、
当社事業の柱に育成**

SAP事業からの撤退

（2024年3月25日）

【背景】 SAPの汎用化 : 新規参入メーカーの技術向上で品質による差別化が困難に
事業環境の急激な悪化 : 安価な中国製品がアジア・日本市場へと流入

江天化学へのSDNの持分譲渡を決定

（2024年9月27日）

三大雅精細化学品（南通）有限公司（SDN）を、
南通江天化学股份有限公司に全持分譲するとする持分譲渡契約を締結

SDPグローバルを吸収合併

（2025年4月1日）

当社グループの経営効率化を考慮し、吸収合併にて解散

◆SAP事業会社の現在

-  SDP GLOBAL(MALAYSIA)SDN.BHD. (SDPM) : 生産停止済
-  三大雅精細化学品（南通）有限公司（SDN） : 持分譲渡を12月に実施予定
-  SDPグローバル : 25年4月に吸収合併を予定



- > サステナビリティ担当役員メッセージ
- > サステナビリティマネジメント
- > 三洋化成グループの価値創造プロセス
- > ステークホルダー・コミュニケーション



- > マテリアリティ



- > 新中期経営計画2025
- > 新たな成長軌道
- > 基盤事業からの展開
- > 環境対応製品

統合報告書は、サステナビリティページのレポートライブラリーからご覧いただけます
<https://www.sanyo-chemical.co.jp/sustainability/library/>

ステークホルダーの皆様との対話の充実を目指してまいります

参考資料

三洋化成グループ

● 連結子会社 ○ 持分法適用会社

国内

- SDPグローバル (株) *1 ● サンアプロ (株) ○ (株) サン・ペトロケミカル
- サンポコ (株) ● サンケミカル (株)

海外

-  ● 三洋化成精細化学品 (南通) 有限公司 *1
-  ● 三大雅精細化学品 (南通) 有限公司 *1 ● 三洋化成 (上海) 貿易有限公司
-  ● 韓国三洋化成 (株)
-  ● Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.
-  ● Sanyo Chemical America Incorporated
-  ● Sanyo Chemical Texas Industries, LLC ○ Sunrise Chemical LLC
-  ● SDP GLOBAL (MALAYSIA) SDN.BHD.*1

物流・サービス

- 三洋化成ロジスティクス (株) ○ 塩浜ケミカル倉庫 (株)

その他の子会社・関連会社：

台湾三洋化成股份有限公司 韓国三洋化成製造 (株) San Nopco (Korea) Limited
San Nopco (Shanghai) Trading Co., Ltd. DaXiang International Trading (Shanghai) Co., Ltd.

注：*1) 高吸水性樹脂事業及び中国江蘇省南通市における生産事業からの撤退を決議しております。
本事業撤退に伴う解散、異動 (持分譲渡) の詳細につきましては、3/25、9/27、11/6公表の適時開示資料をご覧ください。

産業分野別主要製品

大分類	中分類	主要製品
生活・健康 産業関連	生活産業関連	洗剤・洗浄剤用界面活性剤、ヘアケア製品用界面活性剤、製紙用薬剤
	健康産業関連	高吸水性樹脂（SAP）*1、医薬品原料、殺菌消毒剤、外科用止血材、EIA（酵素免疫測定法）用臨床検査薬、人工腎臓用ポッティング材
石油・輸送機産業関連		自動車内装表皮材用ウレタンビーズ（TUB）、ポリウレタンフォーム用原料（PPG）、潤滑油添加剤、燃料油添加剤、水溶性切削油、非ハロゲン系洗浄剤、合成潤滑油ベース、デザインモデル製作用盛り付け樹脂、自動車塗料用樹脂
プラスチック ・繊維 産業関連	プラスチック 産業関連	永久帯電防止剤、顔料分散剤、樹脂改質剤、塗料用樹脂、消泡剤、ポリウレタンエラストマー原料、モデル製作用合成木材
	繊維産業関連	繊維製造用薬剤、炭素繊維用薬剤、ガラス繊維用薬剤、人工皮革・合成皮革用ウレタン樹脂
情報 ・電気電子 産業関連	情報産業関連	重合トナー用材料、トナーバインダー
	電気電子 産業関連	アルミ電解コンデンサ用電解液、電子材料用粘着剤、電子部品製造工程用薬剤、UV・EB硬化樹脂
環境・住設産業関連他		廃水処理用高分子凝集剤、カチオンモノマー、家具・断熱材用PPG、泥水用薬剤、反応性ホットメルト接着剤、建築シーラント用原料、セメント用薬剤

注：*1) 高吸水性樹脂事業及び中国江蘇省南通市における生産事業からの撤退を決議しております。
本事業撤退に伴う解散、異動（持分譲渡）の詳細につきましては、3/25、9/27、11/6公表の適時開示資料をご覧ください。

国内生産拠点



京都工場・本社・研究所
(東山区、約2.6万m²)



鹿島工場
(茨城県神栖市、約13.0万m²)



名古屋工場
(愛知県東海市、約10.0万m²)



衣浦工場
(愛知県半田市、約14.0万m²)



サンケミカル 川崎工場
(神奈川県川崎市、約1.1万m²)

海外生産拠点

 三洋化成精細化学品（南通）有限公司*1



 三大雅精細化学品（南通）有限公司*1



 韓国三洋化成製造株式会社



 Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.



SDP GLOBAL (MALAYSIA) SDN. BHD.*1



Sanyo Chemical Texas Industries, LLC

注：*1) 高吸水性樹脂事業及び中国江蘇省南通市における生産事業からの撤退を決議しております。
本事業撤退に伴う解散、異動（持分譲渡）の詳細につきましては、3/25、9/27、11/6公表の適時開示資料をご覧ください。

海外営業拠点

 三洋化成(上海)貿易有限公司
San Nopco (Shanghai) Trading Co., Ltd.
DaXiang International Trading (Shanghai) Co., Ltd.



 韓国三洋化成株式会社
San Nopco (Korea) Limited

 Sanyo Chemical America Inc.



 台湾三洋化成股份有限公司

 Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.



会社名	略号	議決権所有割合	事業内容
SDPグローバル(株) *1	SDP	三洋化成工業(株) 100%	高吸水性樹脂の製造販売
サンプロ(株)	SNL	三洋化成工業(株) 100%	紙・パルプ薬剤、塗料用薬剤、各種工業用薬剤等の製造販売
サンケミカル(株)	SCC	三洋化成工業(株) 50% ENEOS(株) 50%	ポリウレタンフォーム用原料等の製造
サンアプロ(株)	SA	三洋化成工業(株) 50% Iホニック・インターナショナル ホールディング B.V. 50%	エポキシ樹脂硬化促進剤、ウレタン化反応触媒等の製造販売
三洋化成ロジスティクス(株)	三洋ロジ	三洋化成工業(株) 100%	運送業・倉庫業

注：*1) 高吸水性樹脂事業及び中国江蘇省南通市における生産事業からの撤退を決議しております。
本事業撤退に伴う解散、異動（持分譲渡）の詳細につきましては、3/25、9/27、11/6公表の適時開示資料をご覧ください。

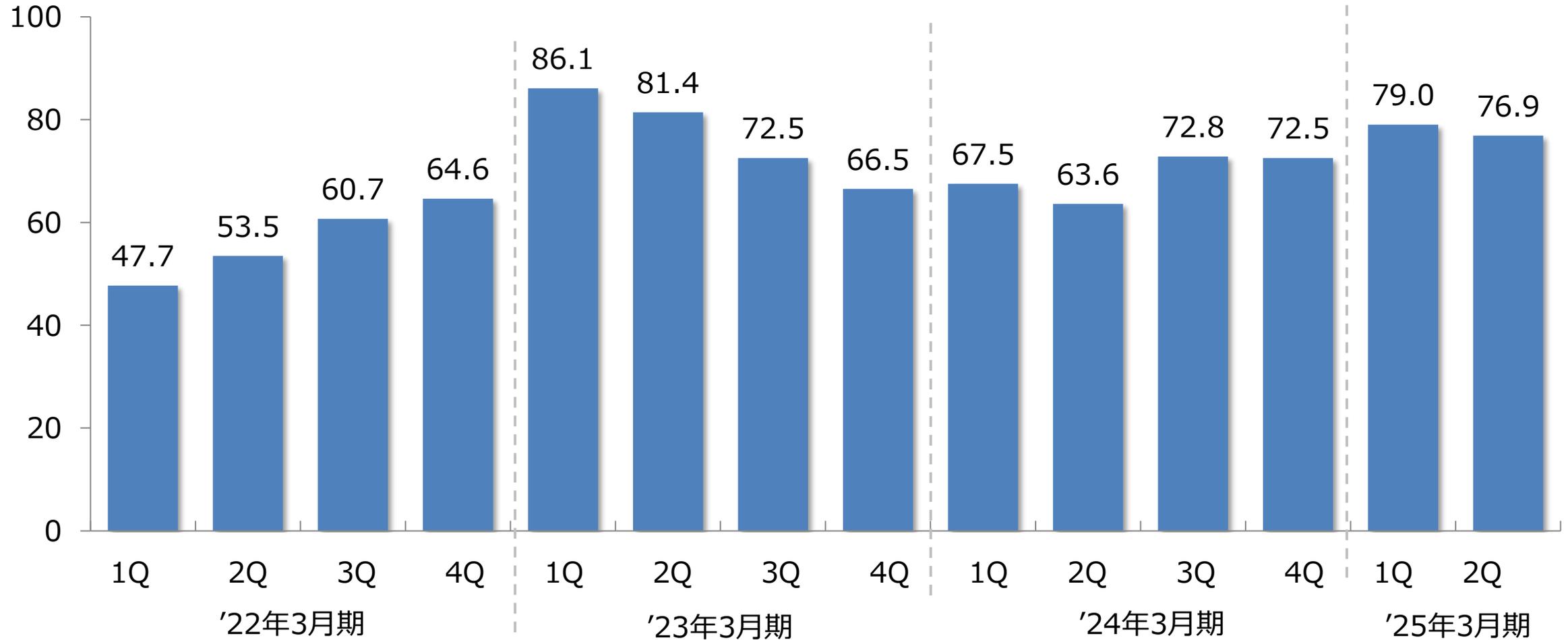
会社名	所在国	略号	議決権所有割合	事業内容
三洋化成精細化学品 (南通) 有限公司*1	中国	SKN	三洋化成工業(株) 100%	界面活性剤、 ウレタン樹脂等の製造
三大雅精細化学品 (南通) 有限公司*1	中国	SDN	SDPグローバル(株) 100%	高吸水性樹脂の製造販売
三洋化成(上海) 貿易有限公司	中国	SCST	三洋化成工業(株) 100%	界面活性剤、 ウレタン樹脂等の販売
Sanyo Kasei (Thailand) Ltd.	タイ	SKT	三洋化成工業(株) 79% VIV, 豊田通商(株)ほか 21%	界面活性剤、ウレタン樹脂 等の製造販売
Sanyo Chemical America Incorporated	米国	SCA	三洋化成工業(株) 100%	米国子会社の統括会社、 潤滑油添加剤、ウレタン ビーズ等の販売
Sanyo Chemical Texas Industries, LLC	米国	SCTI	Sanyo Chemical America Incorporated 100%	ウレタンビーズの製造
SDP GLOBAL (MALAYSIA) SDN.BHD.	マレー シア	SDPM	SDPグローバル(株) 100%	高吸水性樹脂の製造販売
韓国三洋化成株式会社	韓国	SKK	三洋化成工業(株) 100%	潤滑油添加剤、 界面活性剤等の販売

注：*1) 高吸水性樹脂事業及び中国江蘇省南通市における生産事業からの撤退を決議しております。
本事業撤退に伴う解散、異動（持分譲渡）の詳細につきましては、3/25、9/27、11/6公表の適時開示資料をご覧ください。

会社名	略号	議決権所有割合	事業内容
(株)サン・ペトロケミカル	SPCC	三洋化成工業(株) 50% (株)ENEOSマテリアル 50%	合成ゴム原料の製造
Sunrise Chemical LLC [米国]	SRC	Sanyo Chemical America Incorporated 50% ニッポン・ケミカル・テキサス 50%	合成ゴム原料の製造
塩浜ケミカル倉庫(株)	塩ケミ	三洋化成工業(株) 50% (株)ENEOSマテリアル 50%	倉庫業

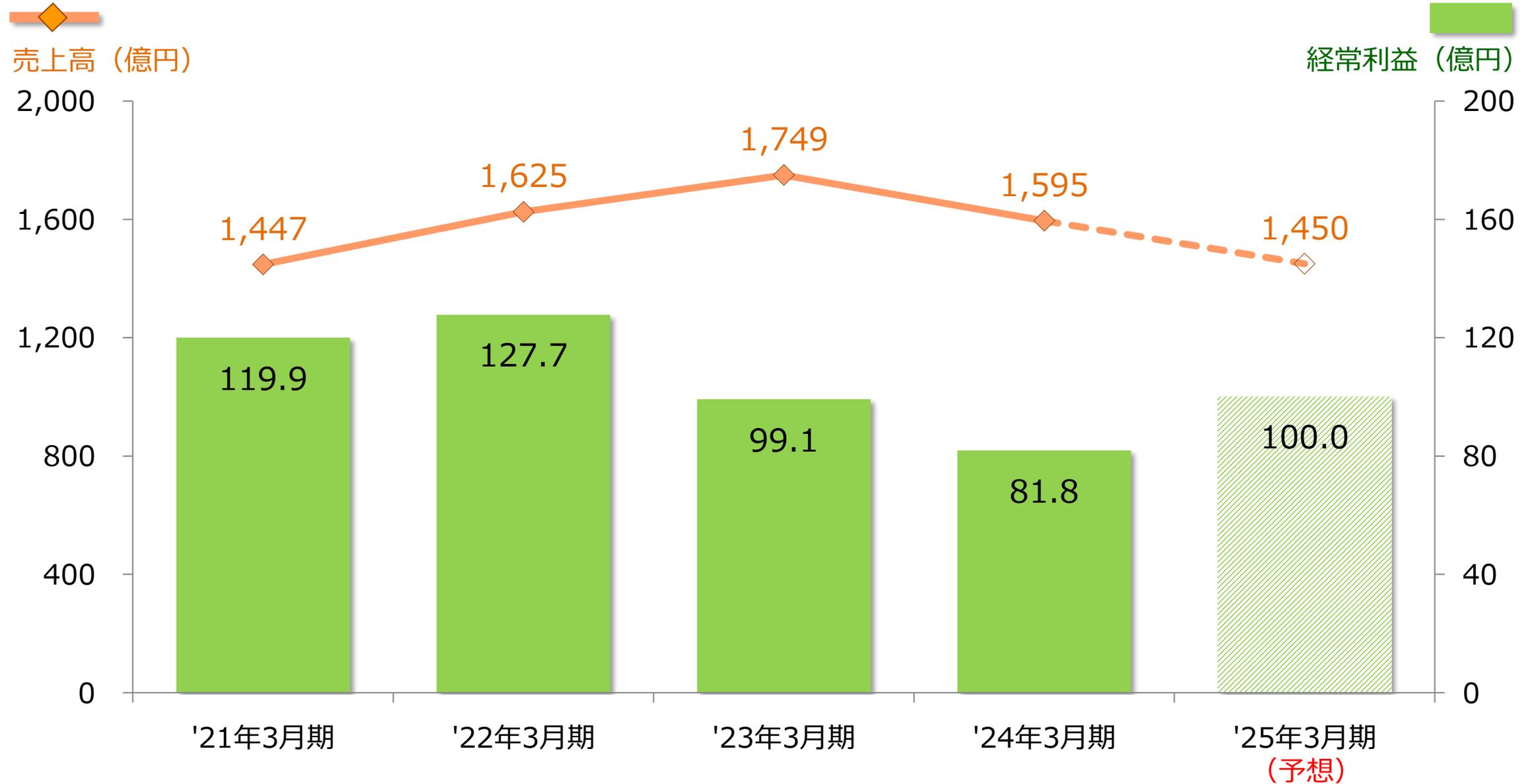
国産ナフサ価格の推移

国産ナフサ価格
(千円/kl)

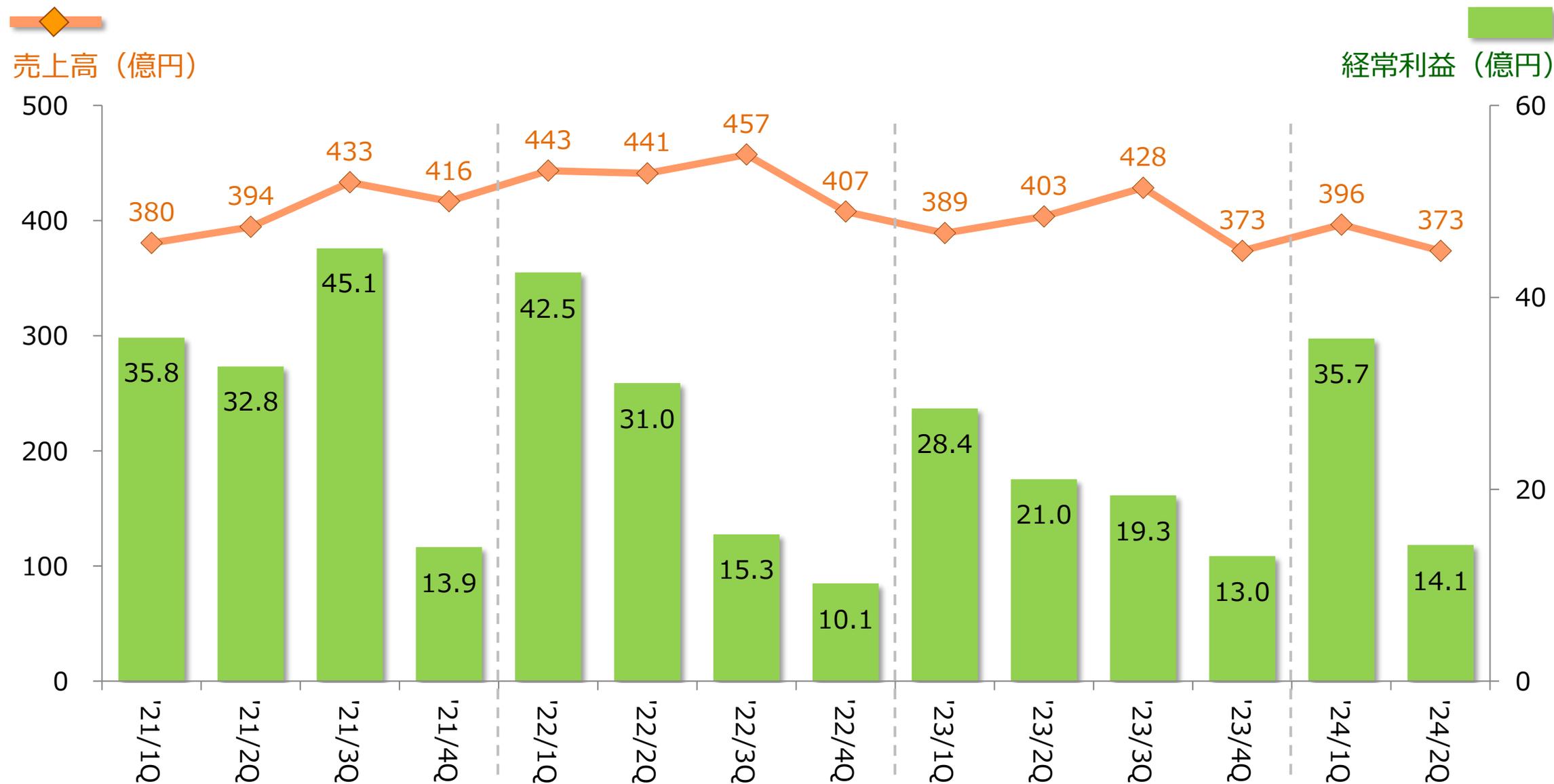


(出典：財務省貿易統計)

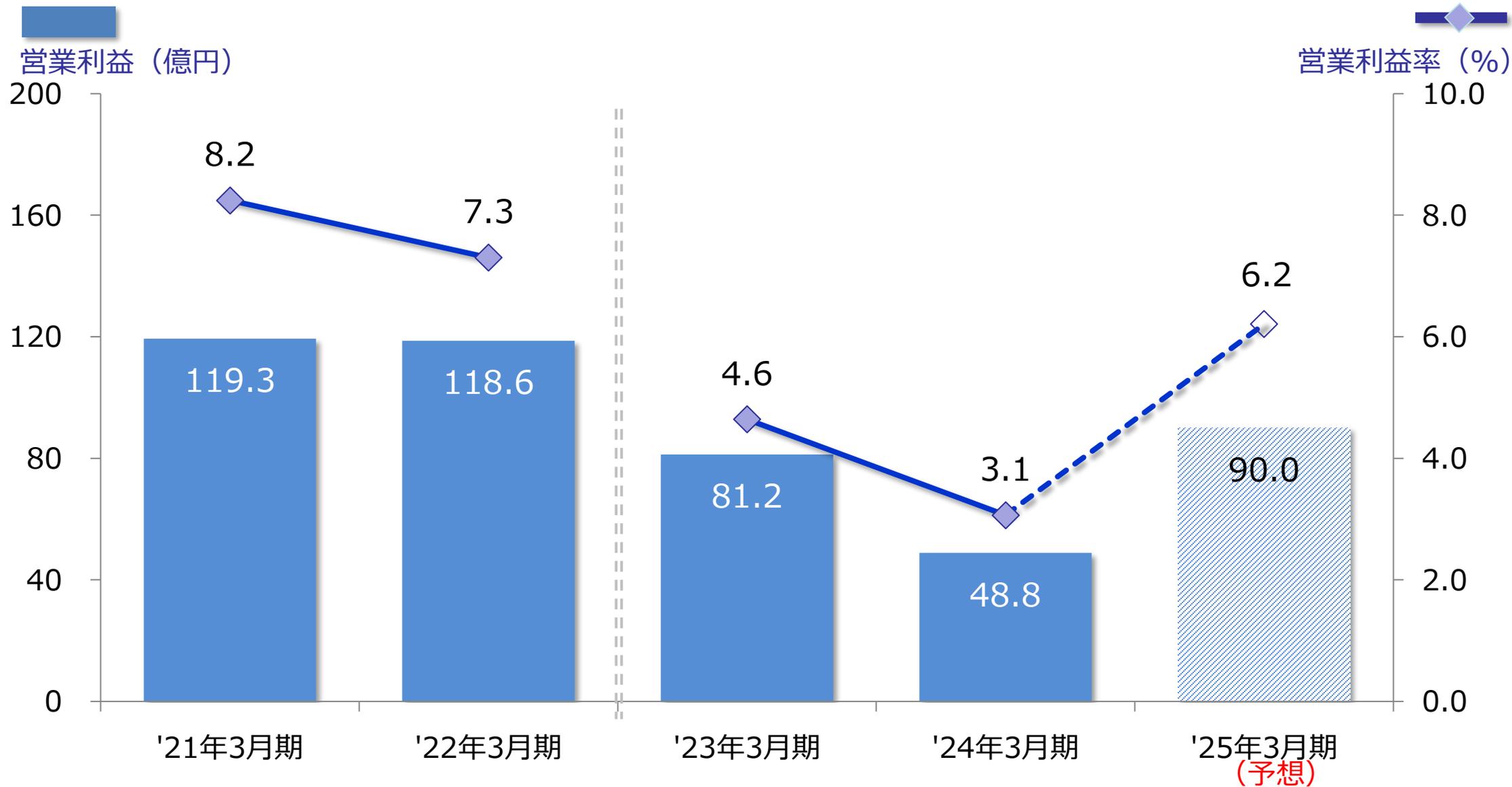
連結業績の推移



連結業績の推移（四半期）

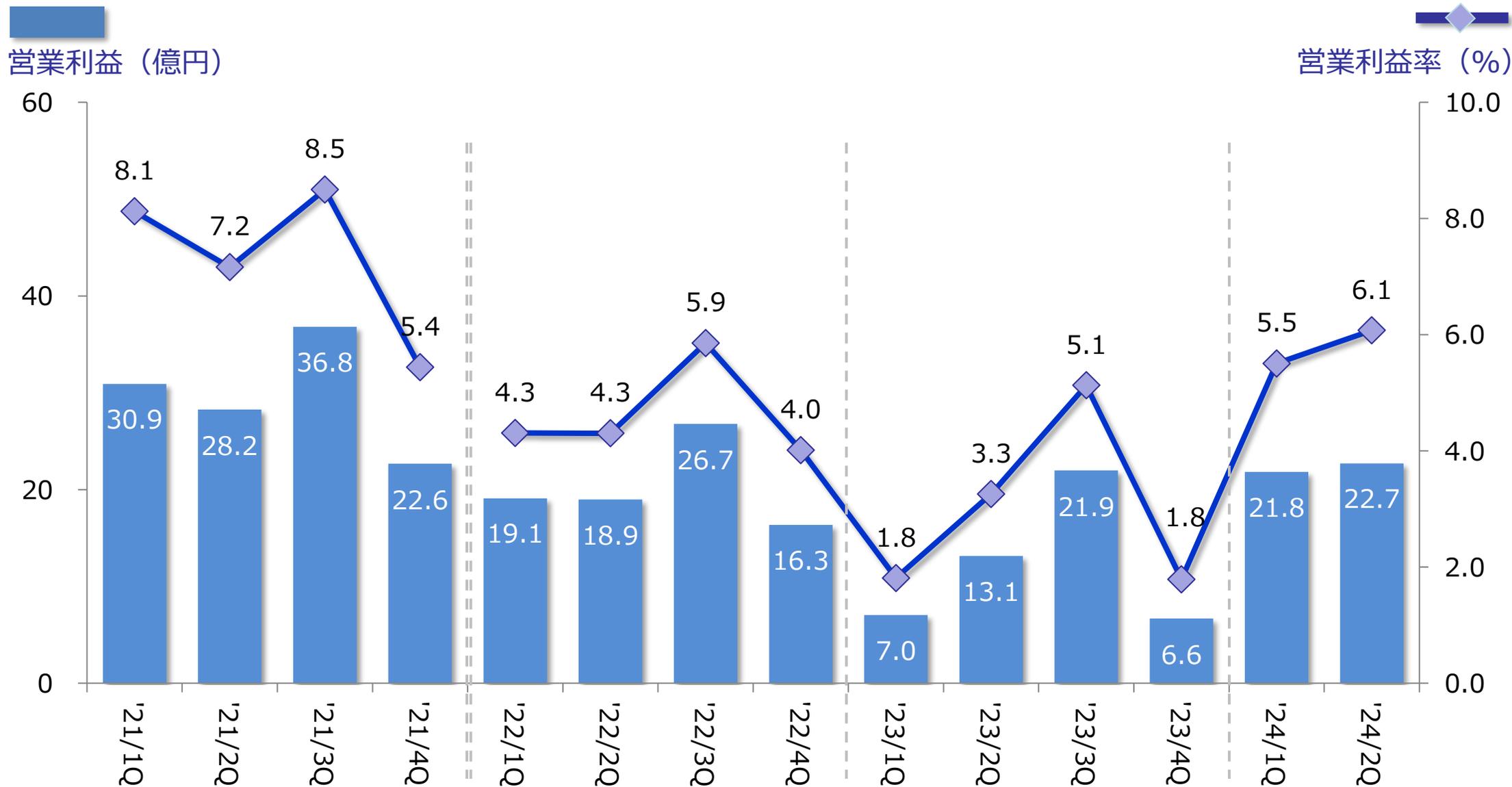


連結営業利益（同率）の推移



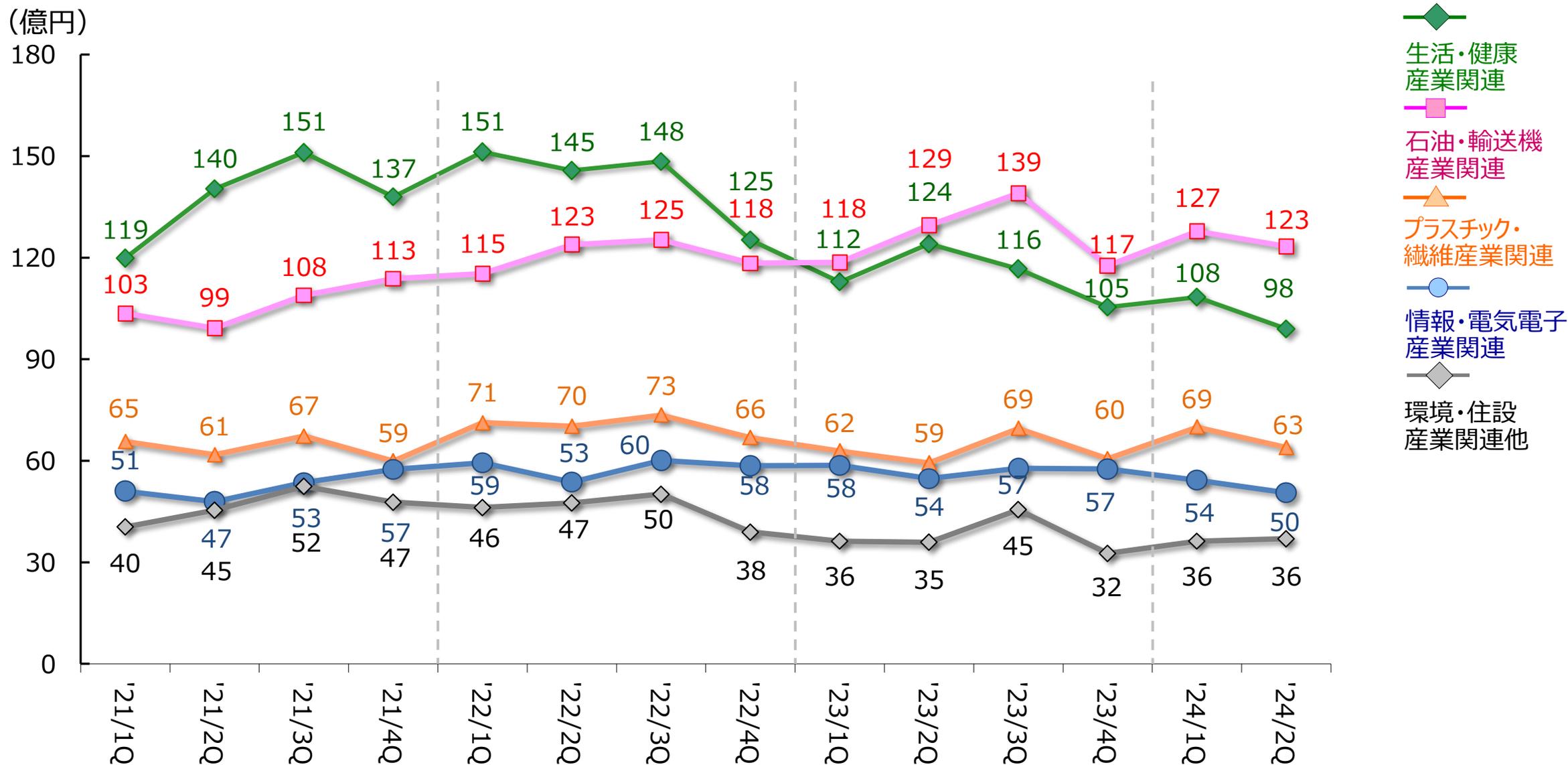
* 一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、'22年3月期以前は組み換え前、'23年3月期以降は組み換え後の数値を表示しております。

連結営業利益（同率）の推移（四半期）

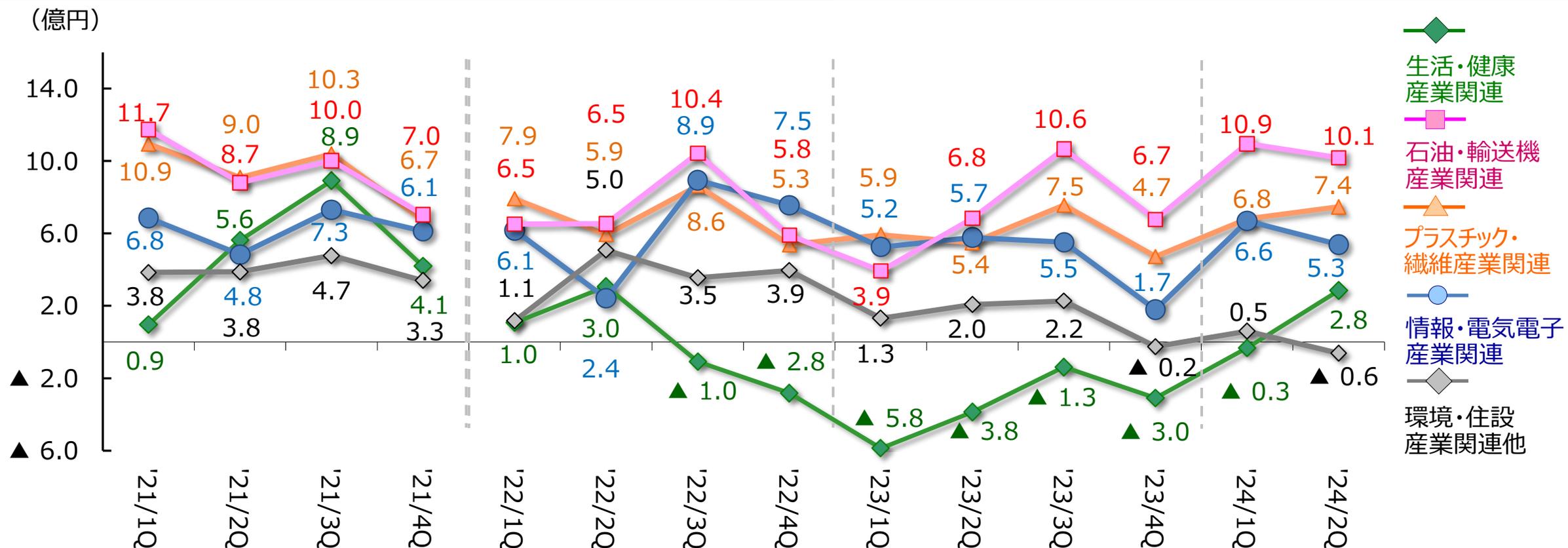


* 一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、'21/4Q以前は組み換え前、'22/1Q以降は組み換え後の数値を表示しております。

連結産業分野別売上高の推移（四半期）



連結産業分野別営業利益の推移（四半期）



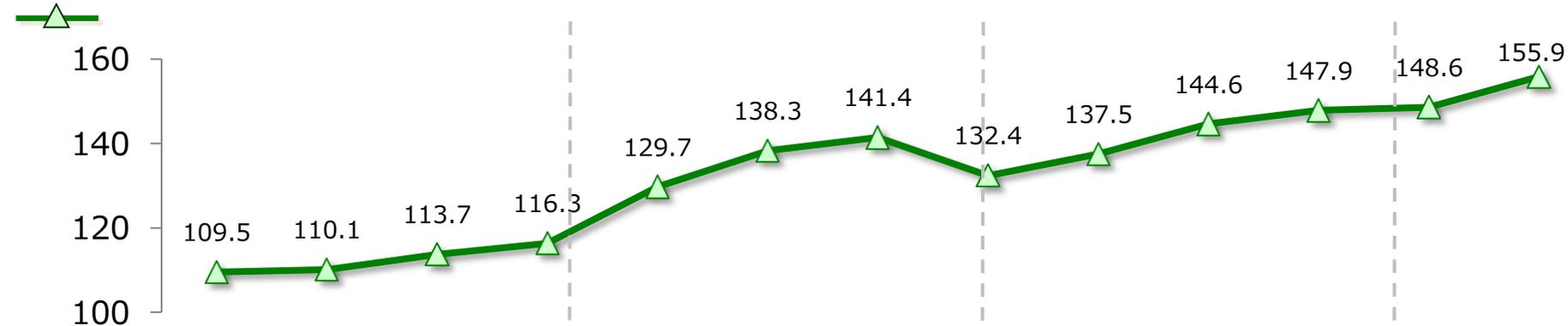
* 一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、'21/4Q以前は組み換え前、'22/1Q以降は組み換え後の数値を表示しております。

新規事業に係る研究開発費（億円）*

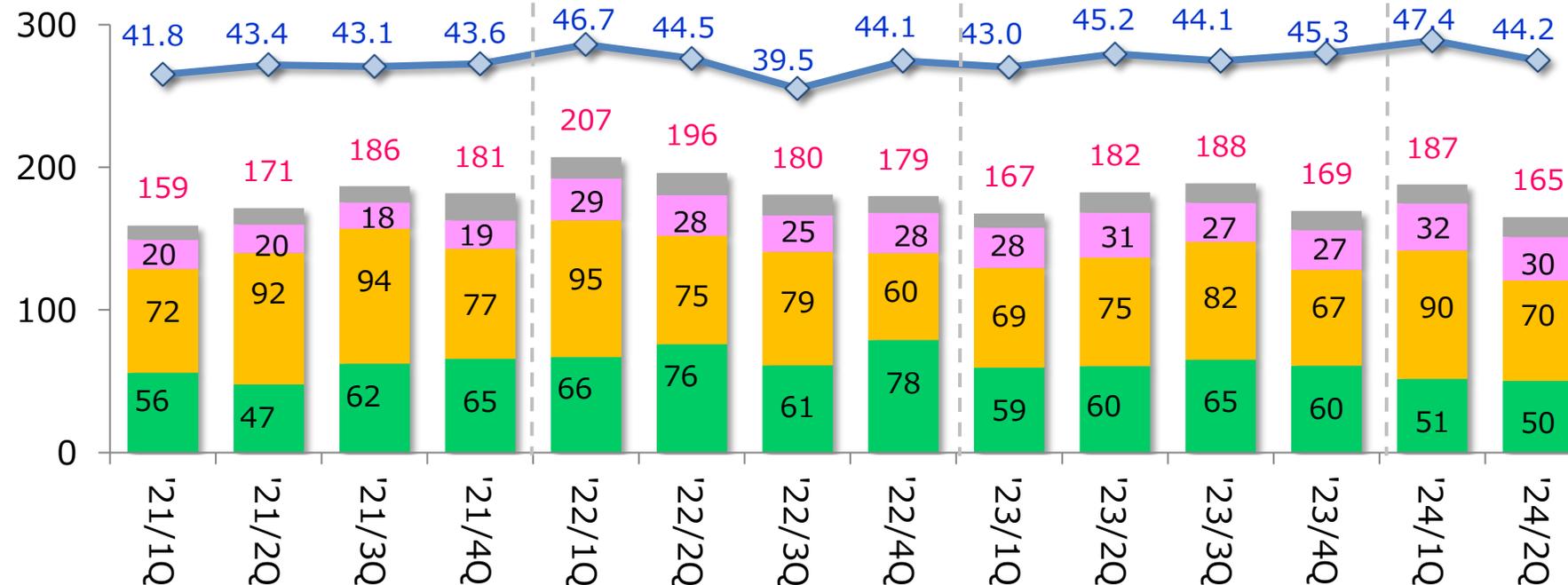
'22年3月期				'23年3月期				'24年3月期				'25年3月期	
1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
▲3.4	▲3.9	▲4.5	▲4.7	▲3.7	▲4.0	▲3.6	▲3.5	▲3.4	▲3.1	▲2.6	▲3.2	▲2.8	▲2.5

海外売上高の推移（四半期）

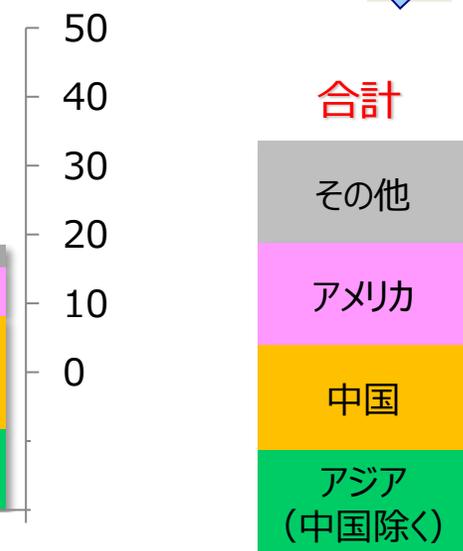
為替（期中平均）（円 / \$）



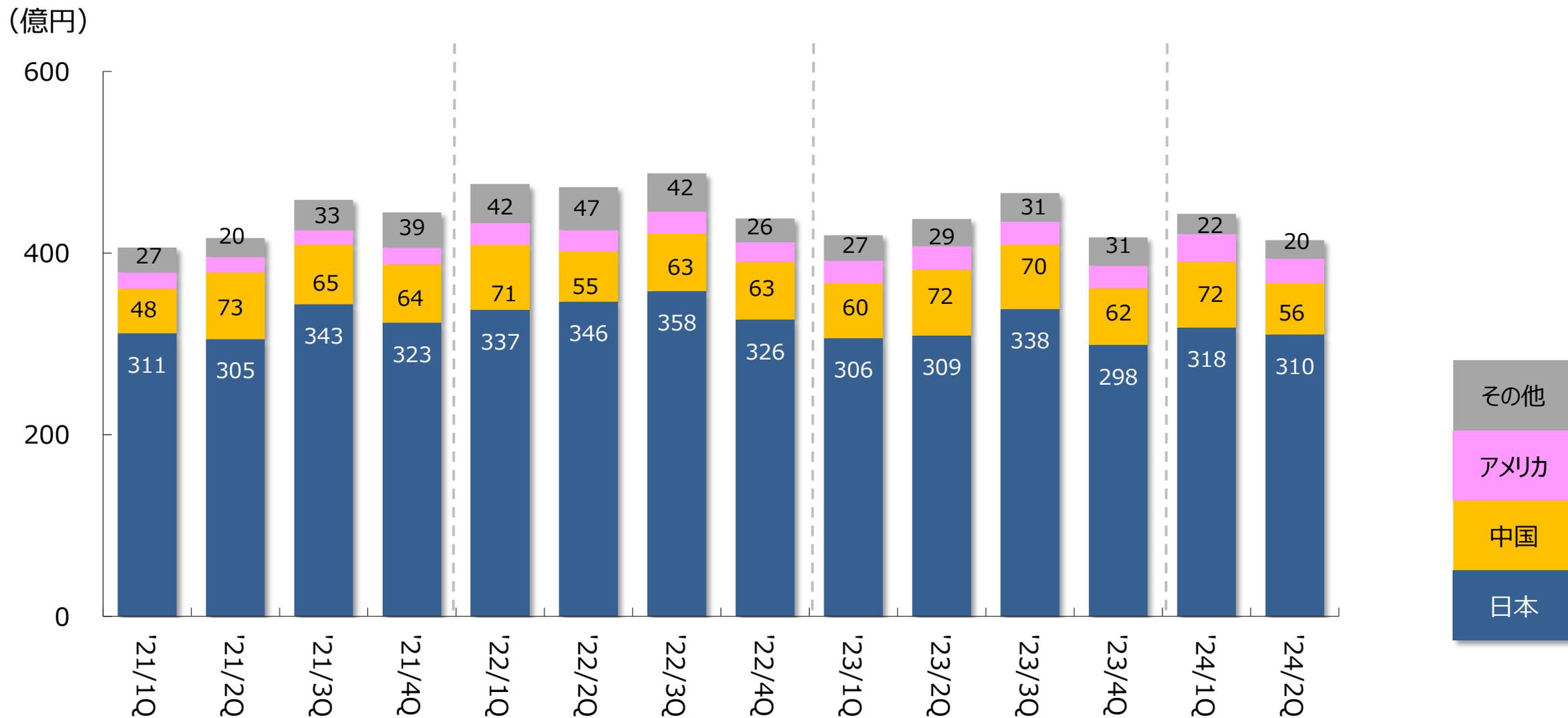
売上高（億円）



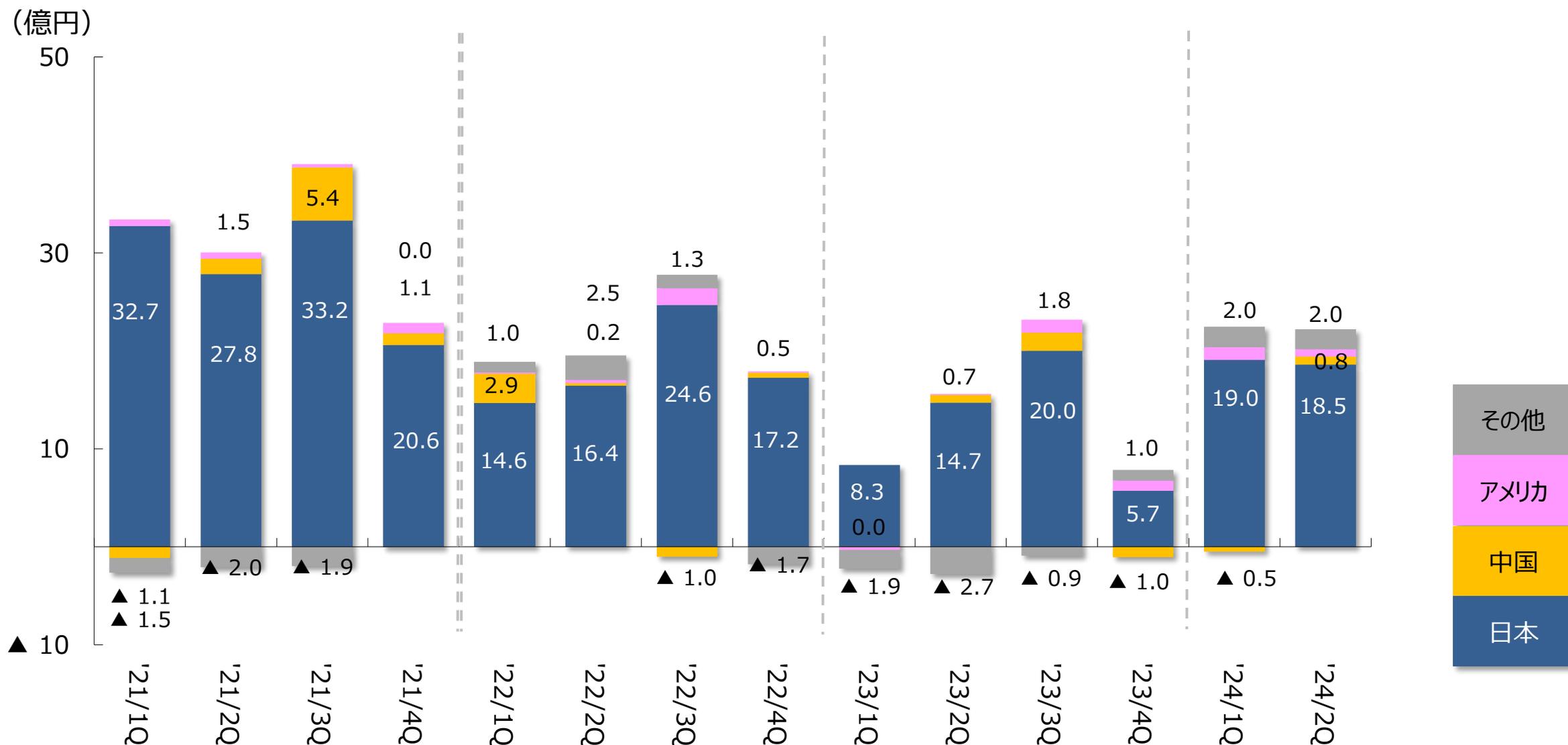
海外売上高比率（%）



連結所在地別売上高の推移（単純合算）



連結所在地別営業利益の推移（単純合算）



* 一部勘定科目の取り扱いの変更を受け、'21/4Q以前は組み換え前、'22/1Q以降は組み換え後の数値を表示しております。